



もの申す

2021年産米の需給調整は、最終的には田植えが済んだイネを飼料用米に転換することで何とか達成できたという危機的状況であった。  
だが、それでも概算金が大きく下がったのは周知のことである。1俵1万円を切るころもあった。  
こうした状況は22年産米についても続くのは必至の情勢である。



もはや影響は無視できない

# 米の需給調整の足かせ ミニマムアクセス米

安藤光義

(東京大学大学院農学生命科学研究科教授)